教育家庭新聞

2022年（令和4年）

11月21日

月曜日

第2223号

神楽月・雪待月

小　雪（11/22）
勤労感謝の日（11/23）
感　謝　祭（11/24）

第3月曜日発行

教育家庭新聞社
発行所＝〒111-0053東京都台東区浅草橋3-1-8
TEL：03（3864）8241㈹
FAX：03（3864）8245
郵便振替口座　1309−53693
購読申込み　☎03（3864）8241 Eメール kks@kknews.co.jp
ホームページ　https://www.kknews.co.jp/
創刊 昭和36年7月　©教育家庭新聞社　1部 480円

紙面案内

食育・学校給食……2面
都内からハイブリッド開催された全国学校給食研究協議大会から、学校経営と栄養教諭を中心にした食育の推進体制について協議した第４分科会の概要をまとめた。

食育特集……3面
食育では「家庭教育ファーストとなる」と語る、農水省・食育推評価専門委員会座長で第４次「食育推進基本計画」策定に携わった服部幸應・服部栄養専門学校校長に、同計画と食育のポイントを聞いた。

学校保健・学校安全……5面
岩手県でオンライン開催された全国学校保健・安全研究大会の記念講演では、子供のストレスとＰＴＳＤ発症の経緯や対処方法などの説明があった。

教育旅行・ＳＤＧｓ……6・7面
Ｗｉｔｈコロナのもと、感染症対策に取り組みながらの教育旅行が実施されているなか、航空機を使った中学校の修学旅行の報告会が横浜市内で開催。北海道、九州、沖縄への実施経緯などが語られた。

学校図書館特集……8面
全国ＳＬＡの学校読書調査によると、１か月間の平均読書量は小学生が１３．２冊で過去最多、中学生は４．７冊、高校生は１．６冊だった。１人１台端末は行き渡ったが、電子書籍の読書傾向に大きな変化は見られなかった。

連載

教職員のメンタルヘルス　第90回…１面
学校給食は食育の教材　第83回…２面

■Twitter
@kyoikukatei

■KKS Webはこちら→

小2がピーク10万件に

文科省調査 生徒指導上の諸課題

いじめの認知件数が過去で最多

学校が認知した2021年度のいじめの件数は小・中・高等学校、特別支援学校を合わせて61万5351件、重大事態件数は705件で、どちらも過去最多だった。小2をピークに年齢が上がるにつれ減っていくことなどが、文部科学省が先ごろ公表した2021年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」から明らかになった。いじめの定義や理解の広がりが認知数増加の背景の一因であると文科省は分析。【4面に続く】

いじめに関する調査は全国の国公私立小・中・高・特別支援学校が対象で2021年度間の実態。

いじめの認知件数は全体で61万5351件、1000人当たりでは47・7件。コロナ禍で対面する機会が減少した2020年度（51万7163件）より2割近い9万8188件の増加だった。

認知件数を学校種別にすると小学校は50万562件（1000人当たり79・9件）、中学校9万7937件（30・0件）、高等学校1万4157件（4・4件）、特別支援学校2695件（18・4件）だった。

コロナ禍で休校が増えた2020年度を除いて、認知件数は増加し続けている。特に小学校が2015年度から急増。1000人当たりでは2013年度17・8件、2014年度18・6件だったところから、2015年度23・2件、2016年度36・5件など急拡大している。2015年12月文科省から「いじめの認知件数がゼロであった学校においては事実を児童生徒や保護者向けに公表し、認知漏れがないかを確認すること」と通知されたことの影響が大きいと思われる。

今回調査では全体の8割に上る79・9％（前年度78・9％）の学校がいじめを認知。1校当たり16・8件（前年度14・1件）に相当。最も割合が高かったのは小学校で88・1％、次いで中学校83・2％、高等学校53・1％、特別支援学校42・7％の順だった。

いじめの内容別状況

	小学校	中学校	高等学校	特別支援
冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	57.0%	62.2%	58.7%	48.3%
仲間はずれ、集団による無視をされる	12.4%	9.6%	15.8%	7.0%
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	25.0%	14.3%	7.7%	24.1%
ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	6.3%	4.9%	3.0%	6.8%
金品をたかられる	0.9%	0.8%	2.1%	1.6%
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	5.1%	5.0%	4.8%	3.9%
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	9.6%	8.1%	6.2%	13.0%
パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる	1.9%	10.0%	17.3%	7.8%
その他	4.5%	3.5%	7.6%	8.4%

いじめの認知件数の推移

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021
小学校	237,256	317,121	425,844	484,545	420,897	500,562
	36.5	49.1	66.0	75.8	66.5	79.9
中学校	71,309	80,424	97,704	106,524	80,877	97,937
	20.8	24.0	29.8	32.8	24.9	30.0
高等学校	12,874	14,789	17,709	18,352	13,126	14,157
	3.7	4.3	5.2	5.4	4.0	4.4
特別支援学校	1,704	2,044	2,676	3,075	2,263	2,695
	12.4	14.5	19.0	21.7	15.9	18.4
計	323,143	414,378	543,933	612,496	517,163	615,351
	21.8	30.9	40.9	46.5	39.7	47.7

上段：認知件数
下段：1000人当たり認知件数

学年別で最も多かったのは小学2年の10万9766件。次いで1年9万6142件、3年9万4781件など小学校低学年が多く、学年が上がるのとほぼ比例して減少している。

いじめの内容別に分類すると、各校種とも「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が最も多く、中学校では62・2％、小学校・高等学校も6割近かった。次いで多かった「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」は特に小学校（25・0％）、特別支援学校（24・1％）、中学校（14・3％）で多かった。

他の校種に比べて高等学校は「パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる」（17・3％）、「仲間はずれ、集団による無視をされる」（15・8％）などが多かった。「パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる」は2万1900件だったが、2014年7898件、2016年1万779件、2018年1万6334件、2020年1万8870件など毎年増加している。

大学オンライン授業が定着

自由な反面対話不足も

2020年から2021年にかけ、大学生が受けた授業は30％から50％以上がオンライン授業で、「自分のペースで」「自由な場所で」授業が受けられるなどのメリットがあった反面、対面授業より「教員とのやりとり」や「他の学生とのやりとり」がしにくいといったデメリットも感じていることなどが今年2月、文部科学省が全国の大学生11万人を対象に実施したインターネットによる「全国学生調査」から分かった。

調査は学生目線で大学や大学教育の改善に活用する目的。参加同意のあった582大学の学部2年生と4年生が対象の試行実施で、10月開催された調査研究協力者会議で公表されたもの。

2020年度の大学授業は同時双方向型オンライン授業が4割以上が48％だったが、21年度は35％。オンデマンド型オンライン授業は20年度は4割以上が52％だったが21年度は30％だった。

これまでに受けたオンライン授業で、対面授業と比べて良かった点は、同時双方向型では「自由な場所で授業が受けやすい」（51％）、「自分のペースで学習しやすい」（32％）など。オンデマンド型では「自分のペースで学習しやすい」（72％）、「自由な場所で授業が受けやすい」（62％）などが多かった。良くなかった点は「他の学生とのやり取りがしにくい」（同時双方向型42％、オンデマンド型40％）、「教員とのやり取りがしにくい」（同時双方向型36％、オンデマンド型44％）、「レポート等の課題が多い」（同時双方向型32％、オンデマンド型39％）など。さらに「疲労を感じやすい」も多く、同時双方向型で40％、オンデマンド型は32％に上った。

列・島・視・界

2020東京五輪・パラリンピックは閉幕後に疑惑の遺産が次々と浮上。組織委員会元役員を巡る不透明なお金の流れをクリヤーにできなければ、2030年冬季五輪招致をはじめこれからのスポーツ大会の信頼だけでなく、若者や子供たちの夢や憧れにも影響しかねない▼揺れる競技スポーツの世界だが、先月引退を表明した平昌五輪のスピードスケート女子500メートル金メダリスト・小平奈緒さんの存在は一服の清涼剤に思えた。来年から母校で後輩の指導に当たるという境地について、記者会見の場では「知るを楽しむ」と語ったそうだ▼小平さんの子供の頃からの勉強好き・研究熱心は有名。練習や合宿先には常に練習ノートを持ち歩き成績や反省点を記録していたという。誰かのためでなく自分のためにという純粋な気持ちの先にスポーツがある。接する後輩達にもきっと伝わるだろう。

教職員メンタルヘルスサポートネットワーク

教職員のメンタルヘルス

第90回

連載 解決への手法と周囲の心得

「マイベスト」という考え方も

■燃え尽きそうなAさん

Aさんの担当する校務分掌は学校全体に関わる教務主任という仕事。とても忙しい上に、産休に入ったCさんの代わりが見つからないため、Aさんが授業を肩代わりしていました。さらに最近は保護者対応でトラブルが発生し、その対応も重なって休日出勤を繰り返していました。

Aさんはやらざるを得ないと腹をくくり、持ち前のガッツで乗り切ろうとしましたが、次第に判断力が低下し仕事の効率もあがらず、ある朝、校門の前まで来たのですが、そこから一歩も校内に入ることができなくなってしまいました。

■管理職の理解が安心感に

ストレスは仕事量だけではなく、職場の人間関係からも影響を受けます。例えば仕事量が多くても、管理職が自分の現状をわかってくれているという安心感があれば、それほどストレスとは感じません。しかし管理職の理解がないと、仕事はただ辛いだけのものになり、大きなストレス源になってしまいます。代わりの教員を探すのが困難な今、教務主任のような学校全体の仕事に関わる貴重な人材を失ってしまうようなことになれば、管理職だけでなく、学校にも痛手です。

管理職は部下を理解し、育てる役割を担っています。また学校経営の責任者でもあると同時に、部下の健康管理の責任者でもあるのです。日頃の教職員の様子に目を配り、安心して仕事ができるようマネジメントする能力が問われます。

部下のストレスを軽減し、教育成果を上げていくことが、管理職の健康経営な手腕（マネジメント能力）の一つと言えるのではないでしょうか。

■「休むこと」も仕事

同じ教員同士でも経験年数等によって力量に差異があるのは当然です。学校現場では成果主義や勤務評価制度等の導入で、デキる教員に一部の仕事が集中する傾向が見られます。前述の教務主任のように、デキる教員はやるからには良い結果を出そう、期待に応えようと辛くても頑張り続けてしまうために、大きな行事が終了した直後、突然体調不良を起こしてしまうケースが少なくありません。

1人職で、代わりのいない役割の教師（養護教諭・栄養教諭や教務主任等）ほど、少しの時間でも「休むこと」が大切です。日本では仕事を休むことに罪悪感を覚える傾向にありますが、疲れは「休まないと病気になるよ」という心や身体からのサインで休むことも仕事のうちです。どのようにしたら休みが取りやすい職場になるかをみんなで考えましょう。

また、「良い結果を出さなければ」と自分を追い詰めないことも大切です。「できる範囲でやればいい」と考えてみましょう。物事の受け止め方や考え方（認知）を変えるだけでも心がずいぶん軽くなります。また、やるべきことの優先順位を決めたり、つらいときは誰かに頼ることも必要です。学校組織はあなたが休んでも必ず代わりの誰かが仕事を引き受けてやってくれますから。ときには「デキる人」を返上する勇気も大切です。

■3か月休んだAさん

周囲に説得され、ようやく3か月ほど休んだAさん。実際には、仕事のことを考えずにゆっくり休めるようになったのは2か月目からでした。家族と過ごす時間が増え、少しずつ食欲も回復し、睡眠も取れるようになり、ようやく職場復帰を果たしました。復帰後も相変わらず仕事量は多いのですが、「マイベストをつくせばいい（できる範囲でやればいい）」と思うように心がけ、仕事の合間にこまめに休憩を入れるようにしたことで次第に回復していきました。管理職もAさんに頼りきりだったことを反省し、なるべく仕事が1人に集中しないよう学年や同じ教科の教員に協力を求め、再び休職に入らないよう心がけているようです。

……

土井一博（どいかずひろ）＝順天堂大学国際教養学部　客員教授

学校保健・安全研究大会

岩手・盛岡で開催

今年度の全国学校保健・安全研究大会が11月10・11日、岩手県の盛岡市民文化ホールを会場にハイブリッドで開催された。大会主題は「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進～多様化する健康課題の解決に向けて主体的に取り組む子供の育成～」。文科省、岩手県・盛岡市教委、日本学校保健会など主催。

初日の全大会では学校保健・安全の功労者表彰、記念講演「災害などで傷ついた子供の回復支援と心の健康教育」（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科特任教授・冨永良喜氏）が行われた。【講演の概要は5面】

今年度の学校保健・学校安全表彰の表彰者は学校医65名、学校歯科医46名、学校薬剤師34名、校長2名、保健主事1名、養護教諭6名、学校保健（学校）15校、学校安全（個人）2名、学校安全（学校）16校、学校安全ボランティア29団体の各氏・団体だった。

小・中学校向け事例収録

主権者教育の資料

小・中学校で主権者教育を推進するための参考資料として、文部科学省は先ごろ指導者用の冊子『「主権者として求められる力」を子供たちに育むために』を作成した。

内容は理論編と実践編で構成。理論編では主権者教育が育成を目指す資質・能力について「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱に沿って、次の通り整理する。

「知識・技能」＝現実社会の諸課題（政治、経済、法など）に関する現状や制度及び概念についての理解／調査や諸資料から情報を効果的に調べまとめる技能

「思考力・判断力・表現力」＝現実社会の諸課題について、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力／現実社会の諸課題の解決に向けて、協働的に追究し根拠をもって主張するなどして合意を形成する力

「学びに向かう力・人間性等」＝自立した主体として、よりよい社会の実現を視野に国家・社会の形成に主体的に参画しようとする力

実践編では小・中学校の校種別に、社会科・特別活動との連携による各3例の指導事例を掲載している。

2015年の公職選挙法改正で選挙権年齢は満18歳以上に引き下げられ、さらに2018年の民法改正で、民法上の成年年齢が満18歳に引き下げられたため18歳から自分で有効な契約ができるようになったことから、政治や社会が高校生にとって身近になり、今まで以上に学校での主権者教育が必要となった。

給食センターの転倒防止に。
滑りに強い靴 HiGRIP（ハイグリップ）
ミドリ安全

https://midori-anzen.com
フリーコール 0120-310-355

クラウドによる情報共有により、多くの目で確認・共有
「給食革命」は、食物アレルギーに対応した学校給食献立管理クラウドシステムです。
保護者・学校・栄養教諭によるリアルタイムの確認作業により、
安全・安心な給食を提供する大人たちの輪（つながり）を実現します。
こどものアレルギー情報 / クラウド共有 / 食品アレルギー情報 / 献立情報
クラウドのチカラで、アレルギー事故のない未来をつくる。
給食革命
アレルギー対応学校給食献立管理クラウドシステム
WEB www.kyusyoku.jp
スマホ・タブレットで献立の確認やアレルギーの確認ができます！

InfoFarm 株式会社インフォファーム
GX 事業部 公共システム部 文教グループ
岐阜県岐阜市柳津町流通センター 1-8-4　TEL:058-279-1881　MAIL:koukyou@infofarm.co.jp